

軍事史学

第58巻 第1号

巻頭言

軍事と産業

岩崎 茂

いつも『軍事史学』をご愛読の皆様、こんにちは。今号の特集は、「軍事と産業」とお聞きし、この表題に私が相応しいか否かや疑問ではありますが、今回この様な機会を頂きましたことに感謝しつつ、折角ですので私なりの「産業」に対します考えを申し上げたいと思います。

我が国政府は、今年末を目前に、「国家安全保障戦略（NSS）」等の三文書改訂の為の検討を行っています。この様な時期に、「軍事と産業」をテーマとされることは、先見性を持った素晴らしい企画だと思えます。

軍事力の評価には、各種の方法がありますが、私は、時折、「人」、「物（装備品）」、そして「運用（作戦）」の三要素で評価しております。この三要素は、どれが欠けても任務達成が出来ません。軍事力は、この三要素の掛け算とも言えます。どれかが「0（ゼロ）」であれば、総合評価は「ゼロ」になり、即ち、任務が完遂できなくなります。この三要素の中の「装備」とは、「産業」の結晶とも言えます。「軍」と「装備（産業）」は、切っても切れない関係にあります。「装備の能力」とは、装備品そのものの能力だけでなく、装備品の開発から維持・整備、そして補給能力までを含む全てを考える必要があります。特に、最近の装備品は高度な先進技術を用いていますので、維持整備や補修等、民間企業に依存せざるを得ない部分が増えています。この様に、軍事力の評価は、軍のみならず、民間企業も含めた総合的な国力を考えた評価が必要になっていきます。こうした傾向は、国家総力戦の前哨戦となった日露戦争での「危うい勝利」がすでに物語っています。最近、我が国では、残念なことに防衛分野から撤退する企業が出てきています。これは、危機的な状況だと言わざるを得ません。自衛隊が精強でも、自衛隊を支える基盤がぐらついている状況では、自衛隊も全うな戦いが出来ません。防衛省・自衛隊は、この様な事態を深刻にとらえ、この問題の解決に鋭意取り組んできておりますが、なかなか実効性ある施策が取れておりません。前述のNSSは、国家安全保障分野で最上位に位置する戦略ですが、これは安全保障に係る全ての分野の基本戦略です。我が国がこれまで繁栄してきたのは、我が国の産業力のお陰です。産業界が活気づけば、必然的に我が国の防衛力が向上することになります。最近のサプライ・チェーン問題や今回のウクライナ侵攻に伴い、これまで想定していなかった綻びが明らかになってきています。年末に向け我が国の安全保障に関する喧々諤々の議論が行われ、確りとした対策を盛り込んだ戦略が策定されますことを切に希望して止みません。

（第四代統合幕僚長）